

# 【地域コミュニティ活性化のためのボランティア活動について】

## ～福岡市早良区賀茂校区の取組み～

福岡市賀茂公民館

館長 越智 廣己

### テーマ

福岡市の持続可能な地域コミュニティづくりに向けて「共創による地域コミュニティ活性化条例」が制定され、地域活動に自主的に取り組むことが促進されています。その中でも、ボランティア活動は地域コミュニティ活性化の重要な位置にあります。今回は、福岡市早良区賀茂校区の公民館とボランティア活動について取り上げ、その役割や取組みについて考えていきます。

昨年の4月に福岡市が持続可能な地域コミュニティづくりに向けて「共創による地域コミュニティ活性化条例」を作成しました。地域活動に自主的に取り組み、つながりや支え合いを促進するよう施策を出しました。

市民や自治協議会、町内会等に、これらの地域活動の方向性を示しました。このことを踏まえて、今回のテーマであるボランティア活動がそこに重なると考え、標記のタイトルを設定しました。

### 福岡市早良区賀茂校区

福岡市は現在7区あります。早良区はその一つで、7区の中でも最も広く人口は約22万人です。賀茂校区はその中にあります。

賀茂校区はほぼ中央、南北に金屑川が流れ、南部に外環状道路、都市高速道路があります。また、市営の地下鉄七隈線が走っているため、利便性がとても良い地域です。空から見ると、外環状線を中心に上下住宅が点在していますが、昔は一軒家住宅を含めて全て畑で、緑一色でした。

現在、賀茂校区では高齢化が進んでおり、60歳以上の高齢化率は福岡市早良区を抜いてトップです。賀茂校区の人口は約1万人を超えており、5000世帯が住んでいます。そして、高齢者世帯独居高

齢者が増加し全体の世帯数も徐々に増しています。

しかし、それに反して各町内会の加入率が非常に低下傾向にあります。そこで賀茂校区では、公民館がどのような役割を担っているのでしょうか。

公民館は学校教育とは異なり、地域の人と一緒に多岐にわたって考えたり、勉強する社会教育生涯学習の役割を担っています。また、公民館は地域住民のニーズに応え、様々なイベントや講座を開催しています。例えば、料理教室やコーラス、体操教室などがあります。これらの活動に参加することで、地域住民同士が交流を深め、コミュニティが活性化することが期待されています。

## 賀茂公民館とボランティア活動

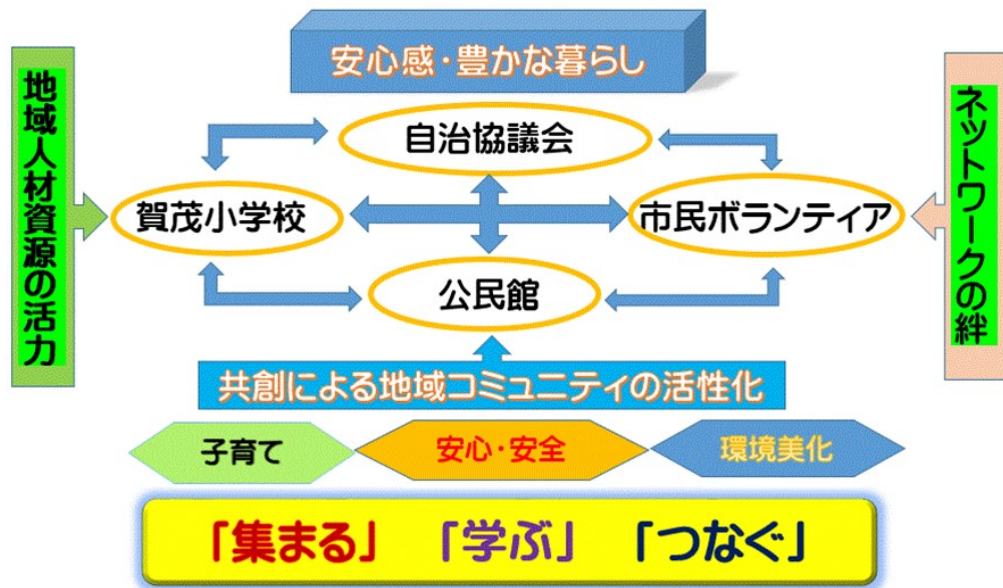
さらに、公民館ではボランティア活動も積極的に行われています。地域清掃、老人いこいの家の利用、様々な形で地域社会に貢献しています。また、地域の防災活動にも協力しており、防災訓練や避難所の運営などを行っています。

これらのボランティア活動は、地域住民の自発的な参加が大切です。公民館は、地域住民に対して様々なボランティア活動への参加を呼びかけ、その重要性を説明することが求められています。また、ボランティア活動に参加することで、地域住民同士が交流を深め、お互いを支えあう関係が築かれることも期待されています。

公民館を中心に、地域住民が協力して行うボランティア活動は、地域コミュニティの活性化につながります。地域住民は、自分たちの住む地域をより良い場所にするために、積極的に参加することが求められます。

ボランティア活動の再活性化は地域を変えていく重要な要素となるでしょう。では、この取組みをどのように展開すればよいのでしょうか。私たちは組織図を作成し、地域コミュニティはボランティア活動を展開する場所であり、組織であることを示しました。賀茂地区では、賀茂小学校、自治協議会、公民館、市民ボランティアなどがそれぞれの活動を進めています。

ボランティア活動を通した  
賀茂校区 地域コミュニティの組織図



ボランティア活動は地域住民がまとまる安心感を生み出し、共通の目標である豊かな暮らしを目指すためには、子育てに安心して安全な地域づくり、環境保全、美化などの具体的な取組みが必要です。これらの活動を効果的に発揮するためには、しっかりと結ばれたネットワークのつながりが重要です。

公民館の「集まる・学ぶ・つなぐ」の役割は、地域の人材資源を活かし、共に展開していくことで地域コミュニティの活性化を促進することができると考えています。ボランティアという言葉の意味は、ラテン語で「ボランタス（意志）」の語源をもち、主体性を意味しています。

今回は、ボランティア活動を「支援」の視点で考えてみました。支援とは力を貸して助けるという意味であり、主体的なボランティア活動が結果的に力を貸して助ける支援とつながることから、この視点を取り入れて発表したいと思います。

## 賀茂公民館のボランティア活動支援

具体的な支援内容については、賀茂校区（賀茂小学校地区）での様々な支援活動を取り上げ、賀茂小学校における学習支援や下校支援を学校と地域ボランティアとが実施しています。例えば放課後支援としては、子どもたちが週に一度、公民館や町内の集会場を訪れて宿題を中心に勉強や読書などを行っています。シニアボランティアや加配の先生方が宿題について教えたり、ヒントを与えたりすることで勉強の補助をしています。このことから「宿題寺子屋」と呼んでいます。

ここ3年は、子どもたちの感染予防のために、残念ながら行事ができませんでした。しかし、宿題寺子屋は毎週火曜日に年33回程度開催されます。また、学校の学期に1回、連絡協議会を開催し、状況や課題点を話し合います。

放課後支援ボランティアでは、下校時の通学路をサポートします。具体的には、毎週水曜日の4月から6月のはじめまで、賀茂小学校1年生が学校から自宅までの通学路を覚えるため、先生方や各町内の有志が引率して、一人で帰宅できるよう支援します。

次に朝の支援は、小学校の授業が始まる前10分間を「賀茂っ子タイム」の時間を学校が設け、「ユーカリの木」のスタッフが各教室に入り、絵本の読み聞かせをしています。子どもたちはこの時間をとても楽しみにしています。また、スタッフがシフト表に合わせ記録を取り、クラスを変えながら行われています。現在は33名のスタッフが活動しています。ユーカリの木という名前は、子どもたちの学校の正面玄関にあるユーカリの木から来ています。

## 「なまずの会」による交通安全対策支援



### 「なまずの会」

平成18年4月結成



#### 目的

★子どもたちの安全・安心を図るため、交通事故防止や防犯対策を実施

#### 「具体的活動」

- ①通学路交通立ち番
- ②青パトロールカーによる校区内巡回パトロール
- ③自転車パトロール
- ④住居周辺歩行パトロール
- ⑤第2・第4土曜日；夜間防犯パトロール



### 賀茂校区「なまずの会」について

そして、ボランティア活動として、賀茂校区には「なまずの会」という組織があり、子どもたちの安全と安心のために様々な活動を行っています。

賀茂校区の「なまずの会」は、様々な活動を通じて地域の子どもたちの安全を守っています。例えば、朝の交通立番から夜間防犯パトロールなど、交通安全対策を行っています。名前の由来は、賀茂に伝わるなまず伝説から来ています。

このような地域特有の名前がつけられた「なまずの会」は、学校安全に大きく貢献し、文部科学大臣表彰を受けたこともあります。他にも、子ども会による廃品回収、清掃活動、フラワーボランティア、免の盆踊りの伝統文化伝承活動など、様々なボランティア活動があります。

### ワンコインでお手伝い

原南自治会福祉会は、地域のニーズに対応するために、ボランティアチームを組んでいます。特に独居高齢者の問題に対処するために、その分野の経験豊富な人々が集まり、500円のワンコインサービスを提供しています。お手伝いの内容は多岐にわたっています。

このサービスの価格設定には、地域の方が無料で頼むことに抵抗感を抱いているという要望も反映されています。また、ワンコインを受け取ったお金は、次回の活動に必要な道具の購入等に充てることになっています。

子ども会による自然物回収も活発に行われており、それぞれの地区で2カ月に1回行われています。この活動は、子どもたちにとって貴重な学びの場となっています。

## 子ども会の活動やボランティア活動

さらに、金屑川清掃も行われています。この活動は、早良区に流れる大きな川、室見川水系の自然を守るために行われており、地域全体で協力して行われています。校区全体の清掃活動として、地域ぐるみのボランティア清掃が行われています。子ども会や中学校、部活のメンバーも参加して、皆で行います。

また、フラワーボランティアとして、賀茂小学校の児童が10数名のボランティアの支援を受けながら、1年かけて花の育て方を学びます。寄せ植え体験も行い、公民館主催の押し花カレンダー作りを通して、子どもたちが自然と親しむことで豊かな心を育みたいという願いから実施されています。子どもたちは大喜びで作品を持ち帰ります。

さらに、子育てサポーターによる活動として、こがも広場が設置され、近隣の乳幼児と保護者が公民館で自由に過ごせる憩いの場となっています。時間内に対応できるよう、子育て交流サロンのボランティアチームが常に対応しています。

## 伝統文化「免の盆踊り」

地域のボランティアによる伝統文化伝承として、「免の盆踊り」があります。この踊りは、300年前の江戸時代の享保の時期に京都から伝わったもので、昔は賀茂校区一带を「大字免」と呼んでいました。各家庭が初盆を迎える際には、6歳から18歳の子どもたちが初盆供養として踊りを舞う慣習がありました。この踊りは、伝統文化として受け継がれてきたものです。

この盆踊りは中断や復活を繰り返しており、再び7年前によみがえりました。途絶えていたこの踊りを最近、復活させようと地域ボランティアが小学3年生に教え「夏祭り」で披露し、また小学校の運動会のダンスに取り入れています。全ての踊りが違うため、少し難しいようです。また笛の演奏では、当初、篠笛で吹いていたところの楽譜を作成し、今ではリコーダーやピッコロ、フルートで演奏しています。



### 「免の盆踊り」

＝地域のボランティアによる伝統文化伝承＝

この盆踊りは、初盆供養として300年ほど前から、初盆を迎えた家々を巡って踊られていた行事です。

賀茂小学校の運動会では3年生がこれを踊ることにより伝統を受け継いでいます。

<「免」とは賀茂地区の昔からの地名です>



## 学生ボランティア

学生ボランティアによる公民館主催事業の支援もあります。現在、福岡大学医学部看護学生と久留米大学生が子ども体験学習に支援に来ています。支援内容は、受付や検温から色々な活動の補助まで、子どもたちと楽しく交流を進めています。活動終了時には、子どもたちが仲良くなって別れたくないと言う心を揺さぶる交流場面も見られました。

賀茂小学校、公民館と連携して、公民館が主体となって学生と内容を協議しながら進められます。

私たちは 久留米大学商学部の学生！  
Computer Scienceを活用した  
Volunteer を行うteamです。



大学や公民館、  
公共施設にて、  
無料で講座を  
行っています。

2022年の実績  
福岡県、佐賀県、  
沖縄県、愛知県  
などで開催！



私たちは  
コンピュータサイエンス (CS) を  
活用したボランティア (V) を行う  
チーム (team) です。



「子ども」から「高齢者」まですべての年代に向けて、  
コンピュータサイエンス、ICT講座など、ボランティアで  
すべて無料で、教えています。どこにでも行きます！

## ボランティア活動の成果

賀茂小学校の児童や地域住民に対する多様なボランティア活動は、伝統文化への支援活動やネットワーク構築に貢献し、地域コミュニティの活性化につながっていることが事業の成果の一つだと考えます。






ただ、今後の課題としては、学校、自治協議会や町内会との連携を強化し、あらゆる機会に活動内容を理解してもらうことが挙げられます。また、公民館においては、多様な学習や交流の場を提供することも必要だと思われれます。

さらに、ボランティア活動については、無理をしない範囲内で展開していくことが大切です。



# 事業の成果

**様々なボランティア活動**





賀茂小学校 ↔ 地域住民 ↔ 環境 ↔ 伝統文化

- 1 様々なボランティア活動が、賀茂小学校の**児童**や**地域住民・環境・伝統文化**への**支援活動**となって、ネットワークの絆をより強固にしている。
- 2 公民館の果たすべき役割（「集まる」・「学ぶ」・「つなぐ」）が賀茂校区全体に関わり、**共創による地域コミュニティの活性化**へと繋がっている。

# 事業の課題

**様々な情報・協力体制**



○あらゆる機会を ○活動の理解を ○出来る範囲から ○交流の場を拡大

学校行事 ↔ 自治協議会 ↔ 公民館事業 ↔ 町内会

- 1 ボランティア活動を実施するには、様々な情報や協力体制が求められる。
- 2 町内会や自治協議会・学校行事への参加等あらゆる機会を捉え、活動の意義や内容の理解を進めていく必要がある。
- 3 出来る範囲でのボランティア活動から始める。
- 4 住民同士の交流の場を拡大する。

## まとめ

私は以前、中学校の吹奏楽部の顧問をしていて、たくさんの演奏をしてきました。この経験から、地域におけるボランティア活動も楽曲の演奏に似ていると感じました。各パートやセクションが（活動の場）すなわちリズムやメロディを担当し、ボランティア活動は（活動の実際）で演奏にあたります。

さまざまな連携が調和やハーモニーを生み出すことで、共有の価値を実現するのです。

ボランティア活動にはさまざまな種類がありますが、共創することにより、それぞれが持ち味を生かして、違った活動を展開することが重要です。そのような違いが、地域コミュニティを活性化させる要素となります。また、リズムやメロディ、ハーモニーといった音楽の3要素が、共創の3要素と重なり合うことで、より強固なネットワークの絆が生まれるのではないかと考えます。

このように、ボランティア活動は地域の人材資源の活力として、大切にされるべきものです。最後に、「岸に沿って川は流れるのではない。川に沿って岸ができるのだ」という言葉がありますが、ボランティア活動は一つの川の勢い、その勢いを伸び伸びと活性できる「地域人材資源の活力・ネットワークの絆」が大切だと思います。